

環境教育「まず、今でもることから」

歴史に学ぶ

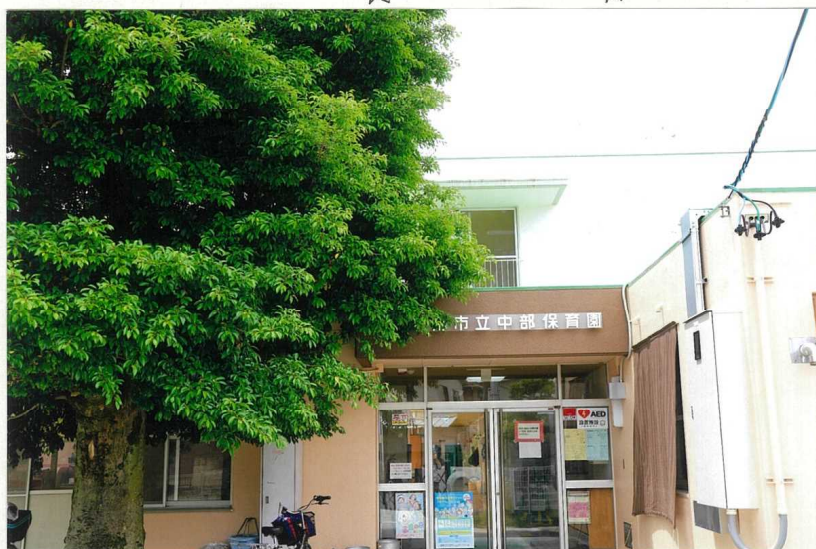
発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



「音を出す指示は、楽譜にはなく、演奏者が音を発することなく時間が過ぎる。米国の作曲家ジョン・ケージの『4分33秒』である。風や雨の音や聴衆のざわめきが聞こえるだろうと、ケージは言ったそうだ。沈黙、静寂、音にならない音の中から感じ取る何かが主題の一つであろう。先頃この曲を披露して話題になったのがベルリン・フィルハー

モニ管弦楽団だった。ドイツで新たな都市封鎖が近づき、生の演奏がまた人々から遠ざかるとしていたこの公演である。

音なき音はやはり多く語るものらしい。
補聴器大手のリオンが調べている「いに残った音」の2020年一位は緊急事態宣言で閑散とした繁華街や観光地などの「静けさ」だった。
昨年のラグビー日本代表への歓声やその前の豪雨の音など、大小の音がその年の音に選ばれてきたが、この1年で初めて静けさが選ばれたそうだ。



患者や医療関係者の方への思い、この先への不安場を上げてくる感情に、皆のあふれる多岐にわたる。にぎやかさは、ずいぶん遠ざかっていた音符の、日々はあったわけ

